

Coptic Orthodox Patriarchate  
His Holiness Pope Tawadros II  
Pope of Alexandria and  
Patriarch of the See of St. Mark  
The Papal Center



بطيركية الأقباط الأرثوذكس  
قداسة البابا الأنبا توادروس الثاني  
بابا الأسكندرية  
وبطيرك الكرازة المرقسية  
المقر البابوي

222 Ramses St., Abbaseya, Cairo, Egypt

Πατριάρχης

222 شارع رمسيس ، العباسية ، القاهرة ، مصر

Tel: 024822580

Fax: 0235365880

email: office@popetawadros.org

0235365880

تليفون: 024822580 فاكس:

Japanese

光栄なる御復活の祭典における教皇からの挨拶。

父と子と聖霊、唯一なる神の御名において、アーメン。

エクリストス アネスティ、アリソース アネスティ。キリストは復活された。まことに彼は復活された。

東方教会の暦にしたがって復活祭を祝う愛する皆さん、主の御復活の祭典おめでとうございます。5つの大陸にある各司教区のすべてのコプト教会の信徒たちを祝福します。聖職者、首座司教、司教、司祭、助祭、すべての会衆とすべての若者と子たちにお祝いの言葉を述べます。我々の初めの喜びである御復活の祭典を皆さんとお祝いします。復活に対する信仰と教義は、キリスト教の基盤です。

ご復活の出来事は、金、土、日曜日と3日間にわたっています。主が十字架に架けられた金曜日。（主のご復活を）待ち望む土曜日は、喜びの土曜日です。そして、ご復活の日曜日。それは勝利の日曜日です。キリスト教について、聖パウロが語り、書き留めたものを見てみましょう。彼は哲学者であり、偉大な神学者でした。14の書簡には、キリストや教会や復活や永遠の命について、たくさんの方が書かれています。しかし、第1コリント人への手紙の13章、その章の13節に、愛についての不滅の詩を書いています。最後の節で、彼は語っています。信仰、希望、愛、その中で、最も偉大なのは愛である。（第1コリント人への手紙13:13）これら3つのものは、世界の歴史と人間の生き方を変えた、あの三日間にあったことです。

第一日目は主が十字架に架けられた日である金曜日。聖パウロはそこに信仰を見えています。十字架に架けられた日は信仰の日なのです。私たちの主イエス・キリストは十字架の上で処刑されました。私たちは祈り、こう言います、「おお。あなたは、週の6番目の日に6時間、十字架の上に釘づけられた。それは私たち皆のためであった。」この十字架が、我らの主イエス・キリストが十字架に架けられたことこそが証しでした。雅歌の歌の中に言われているように、「私の愛する方は輝いて、白く赤く、万人よりすぐれ、」（ソロモンの雅歌5:10）白と赤は純粹さと罪の贖いのことを象徴します。「万人よりすぐれ」というのは彼はいわば旗じるしであったという意味です。十字架は旗じるしとして高く掲げられました。主、イエス・キリストがゴルゴタで十字架に付けられた時、十字架による処刑の日は信仰の日となりました。十字架の土台は、私たちの信仰です。聖パウロはこのように言っています、「私はキリストと共に十字架に付けられた。もはや、私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられる。」（ガラリヤ人への手紙2:20）

キリストが皆の贖い主、そして救い主となられる、そのみ業は、金曜日に成し遂げられました。十字架の前にあなたが私と一緒に立つ時、私たちはあの百人隊長を思い出します。キリストの脇腹が槍で刺された時、血と水が噴き出しました。そして、百人隊長はあの有名な言葉を発しました。「この方は、まことに神の子であった。」（マタイ27：54）ローマ人として百人隊長の証しは、キリストが全人類のために成し遂げられたことについての、異教徒の側からの証しでした。信仰の土台は、十字架に架けられた我らの主イエス・キリストの、その十字架にあるのです。恥辱、屈辱の十字架は、死をもたらすものであり、死の象徴でした。キリストは、これを私たち皆が誇るべき、栄光と栄誉の手段に変えられました。これが、主が十字架で処刑された日、信仰の日である金曜日なのです。

そして、喜びの土曜日がやって来ます。待ち望みの土曜日、希望の土曜日とも呼ばれています。これは、希望の日であると聖パウロによって説明されています。キリストは、十字架に付けられて処刑され、死に、墓に葬られました。弟子たちと愛する者達は、主のご復活の希望を持ち、待ち続けました。キリストが最後に弟子達と語られた時に述べられた、あの希望の日でした。希望に満ちた日でした。と同時に、恐れや心配や忍耐の日でした。弟子たちや愛する者たちの魂を奪うような恐れがありました。イエスは墓の中に葬られた。しかし、イエスはどこに？それが、希望の土曜日でした。徹夜で黙示録を読み、そのまま夜を明かす日です。闇から光へ、そして、永遠の世界へと救われること、待ち望むことを朗読します。これが希望の日でした。

そして、復活の日である日曜日の明け方がきました。復活の日は愛の日です。聖パウロはこう言っています。「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛。このうちで、最も大いなるものは愛である。」（第1コリント人への手紙13：13）キリストの復活はすべての人への愛でした。聖パウロは立ちあがり、力強く語ります。「すなわち、キリストとその復活の力を知り、その苦難にあずかってその死のさとひとしくなるのがわかる。」（ピリピ人への手紙3：10）この個人的な復活の体験は、全ての人の愛のためでした。神はすべての人の魂が心配や悲しみや苦痛の中に住むままにはされませんでした。この状態に魂を放ってはおかれませんでした。神は愛と喜びでもって人類を満たされる日として、日曜日の明け方を選ばれました。神なる愛により満たされた人の心は喜びに生きます。この愛はどこから来るのでしょうか？それは、人の心が愛によって満たされるときに来るものです。そして、十字架上のキリストの手を感じる時に、さらに心まで届くのです。これは、十字架の上で流された血のしずくと共にあるものです。全ての人のための、そして人間の罪、苦しみのための愛のしずくでした。神は日曜日の明け方に死から蘇られました。イエスの死からの復活は、イエスが人類を愛されていることを力強く表明するものとなりました。

毎日、一日の始まりに、私たちは朝の祈りをします。それは、イエスの復活を記念する祈りです。毎週、私たちは日曜日に祈ります。それは、日曜日の明け方に起こったイエスの復活の記念です。日曜日は週の祝日になりました。私たちは神の愛の祝日と言います。神が私たちの心の中に注がれた神の愛です。聖パウロはローマ人の手紙でこう言っています。「私たちに賜っている聖霊によって神の愛が私たちの心に注がれているからである。」（ローマ人への手紙5：5）また、復活における神の働きはすべてのコプトの月にも及んでいます。

コプトの毎月の29日は、復活、降誕と受胎告知を記念するものです。そして、毎年、栄光なる復活祭を50日間、または、7週間祝います。そして、8週目が始まると、永遠なる天国の人生に関係することを祈念するのです。

愛する皆様にお祝いを述べます。祝福された喜びに満たされた祭日となりますように。私たちが信仰、希望、愛を感じるお祭りとなるようお祈りします。その中でも最も大きいのは愛です。それは、全ての人のために神が注がれたキリストの愛です。皆さんが、すべての善のうちに生きることを願っています。各司教区の皆様が日々善と愛のうちに過ごされるようお祈りいたします。あなた方の奉仕と愛が全ての人へ広がりますように。エクリスト・アネステイ、アリソース・アネステイ。キリストは復活された。まことに復活された。

Samadras II

